



広報

のあさひ

No.314

'83

1/1

賀
心

※完成した送橋小新校舎から「おめでとう」





中学でも 剣道をやりたい

送橋小八年 清野強志さん

今年はいのししでぼくの年である。だから、中学進学に向かってまっしぐらに進もうと思っている。

ぼくたちは、一月からすばらしい新校舎で勉強することになった。何もかも新しい設備の中で、三カ月間心をひきしめて勉強や運動をしたいと考えている。



中学校に入学すると、勉

主役はあなた 町民の夢と抱負

初めての 試練

朝日三年 佐藤伸美さん

強の仕方が変わるし、部活動がでてる。ぼくは、スポーツ少年団で剣道をやってきた。きびしくてつらい練習もあったが、今は少しぐらいのつらさは気にならなくなった。きたえてもらったのがよかったのだと思う。

中学に入学したら、できれば、そのまま剣道部に入ってがんばろうと思っている。

今年はいのししの年、目標に向かってまっすぐに走っていく。

明けましておめでとうございます。
1983年の幕開けに、皆さんはどんな決意をされたことでしょうか。今年はとりわけ厳しい年になりそうですが、この荒波をみんなで力を合わせ乗り切っていきたいものです。

にいる。高校、大学と進学する中で、今まで全く交流のなかったほかの地域の人々と交わり、自分がどのように変わってゆくか楽しめた。また、反面これらの何十年かの人生を自分で切り開くことが不安でな



らない。今年はいのししから脱皮し大人へ前進する冒険の年になるかもしれない。夏目漱石の『それから』に、人間の目的は本人自身でつくったものでなければならぬというのがあった。

今年はいのししを見つめることから始め、自分自身から人生の目的を見いだせるようにしたい。

生き生きした

朝日分校に

朝日分校 年 川崎洋子さん

八十三年は私に何を教え

てくれる年になるのでしょうか。これまで学校行事や町内の行事に参加してきて、成功の喜びや、失敗の苦しい思いなどたくさん味わってきました。そして、そこから一つ一つ何かを学びとり、自分自身がより大きな人間となるように努めてきました。そして、新たな年である八十三年は、私にとってとてもたいせつな年になるでしょう。

生徒会の活動では、これまで先輩がたが築いてくれた朝日分校のすばらしい伝統を受け継ぎ、少ない人数ではあっても生き生きとした毎日を過ごせるようにし



たいと思っています。

あとボランティアサークルの「とちっほ」のメンバーとしても自覚を持ち、小さい子どもたちの笑い声と、



新しい年の '83年によせる

二代目菓子店を

目指して

常盤 白田光博さん

新年明けましておめでと

おじいさんやおばあさんの温かさに触れ、私のできる精いっぱいの事をやっていきたいと思っています。
このように夢多い私ですが、三日坊主にならずに、不言実行の精神を貫いていきたい。そして、器の大きい成長した人間になりたいと思います。

新春いんたびゅう

うございます。

今冬は近年になく雪が少ないので、多忙な私にとって何かと都合に思います。

高校卒業後、山形で、住み込みで菓子作りの修業を積んできました。三年間、いろいろつらい時もありま



したが、過ぎ去ったことを振り返ってみて、菓子職人としてこれで勉強が終わったということがなく、生涯をかけて取り組める奥の深い職業だと思っています。
朝日町に帰ってきて部落の青年会、青年団に入会しいろいろな人との触れ合いの楽しさとむずかしさを痛感

しています。

各部落や各家庭の人たちを覚えるためにもと、昨秋初めてケーキの注文に回りました。各戸を訪問してみても商売がいかに大変な事かを身をもって体験し、初代のおやじの苦勞を身にしみて感じました。

これからお客様のお口に愛される菓子を、いろいろアドバイスを頂きながら研究を続けていきたい。

また当地区に見合った軽食、喫茶店などなんでもある地域、明るい部落づくりをと思っています。

町の中心部でなければだめだと決めつけしないで、若者に魅力ある町づくりがらばりたいと思います。

夫は脱サラ

一年生

大谷四 松田吟子さん

昨年七月三十一日に札幌を離れ、帰途少なからず緊張していたことを今でも覚えています。

それもそのはず、夫にとつては、十七年十カ月の公

務員生活に見切りをつけ、父の跡を継いで海産物商を始めようとする時で、私にとっては十五年振りのUターンだったからです。

夫が、「せめて二十年までは頑張り」と言う同僚や上司の言葉を振り切ってきたのは、祖父母、両親が築き上げた店をつぶしてはい



けない、という責任感からでした。それに、店がなくなったら困る、という地域のかたがたのために役立つのならやはり続けるべきだ、どうせやるのなら父が元気で働いている間にいろいろな事を学びたい、と決心したからでした。

正直に言って新しい生活には不安が多々ありましたが、でもそれは、地域のかたがたの心からの歓迎と激励で少しずつ解消し、今では帰ってきてほんとうによかったと思っています。

とにかく夫は脱サラ一年生。これまで鍛え上げた体力と精神力で、これからのしかかってくる幾多の困難を乗り越えていってほしいと思います。

四十余年も母が父にしていたように、私も力を惜しまず手助けしていかなければと、心を新たにしています。

スポーツで 明るい部落を

大暮山 阿部久三さん

昭和五十六年に待望の大暮山地区のグラウンドがらっぱに出来上がりました。私はなにも得意なものがないかったのですが、グラウンドが出来たことを契機として、体力づくりのために、ソフトボールを始めました。

大暮山スポーツ愛好会は五十四年に発足し、現在会員は三十四人です。

町内全体を見渡しても、スポーツ活動は年々盛んになっていきますが、私たちの愛好会でも、毎週一、二回

ソフトボールの早朝練習を重ねてきました。全国的にますます盛んになるソフトボールも部落の



グラウンドででき、昨年はいろいろな大会に参加し、入賞することができました。これも会員みんなの熱意と努力があったからこそと思います。

また、幼児から老人まで参加する部落挙げての体育大会も、回を重ねること十一回となりました。これも部落の皆さんが協力し合って盛り上げてきたからだだと思います。当地区の体育大会は、町内ではいちばん長い回数を開いているものと自負しています。

これからも私たちのグラウンドを、じゅうぶん活用し、区民の体力づくりはもちろん、スポーツで人と人とのつながりの輪を大きく広げ、明るく住みよい部落

町民の皆様明けておめでとうございます。

一九八三年、昭和五十八年の新春を迎えなんとなく重苦しい感じを禁じ得ないのは独り私だけでありましょうか。

これまで我が国は平和と安全と繁栄を目指し国民挙げて努力をしてきた結果、目覚ましい経済的發展を遂げ国民総生産額世界第二位を誇り、福祉の充実と労働時間の短縮に狂奔してきたが、今や世界的な不況による深刻な貿易摩擦、

苦しい時こそ知恵と力を

朝日町長 小林 富蔵

力を求めているのです。

こうした事情の下において我が朝日町の振興発展をどうして図って行くかが昭和五十八年度以降の課題です。誠に容易な事ではありませんが、昔から言われている言葉に「国乱れて忠臣出づ」「家貧しくして孝子出づ」あるいは「艱難汝を玉にす」ということがあります。困難に遭えば遭うほど力を出すのがほんとうの人間であると思います。

また一方米・ソの核軍拡を基調とした核戦争の不安があり、平和と安全保持のため我が国の防衛力増強が厳しく要求されています。ところが政府は積年の財政運営の結果、莫大な赤字国債を抱え財政破綻の危機を迎え、地方財政また大同小異と言わざるを得ません。従って現在政府が苦慮している第二次臨時調査会の答申による行財政改革が焦眉の急務となっております、国民に痛み分けと自立、自助努

前途を見渡す時、悲観的な材料だけ多いのですが、こういう時こそ町民みんなが知恵と力を出し合い、一致結束して困難に挑戦しなければならぬ時であると思います。町はこれまでやってきた諸々の事業を継続して行くと共に、経常的な経費を極力節減し、できる限りの費用を建設費に投ずる一方、時世の変化に即応し誤りのない方向を示すべく、五十八年度中に従来の基本構

想、基本計画を根本的に見直し、新しい構想、計画を策定する考えです。これには町民各位の幅広い参加がぜひとも必要です。皆さんの日ごろのお考えをどしどし出してください。世の中はだんだん難しくなることが予想されますが、こここでくじけることなく覚悟を新たにしておいて町民一丸となり明日の朝日町を築き上げるために頑張ろうではありませんか。





誘客に力を入れた白倉スキー場

を作っていききたいものです。

年間通した

白倉の観光を

白倉 伊藤浅雄さん

昭和五十三年の白倉スキー場オープン以来、従業員として働いていますが、若いスキーヤーとつき合っていると、年とった気がしません。それに、スキー場で働くようになってからは、七十歳になった私でも風邪一つひきません。

最初ボニールフト一本だけだったのが、二年目には

第二ボニールフトを設置。さらに五十六年には八〇〇

坪チェアリフト、昨年は、

すばらしいロッジが建設され、スキー場としての条件

が次々と整っています。

過疎対策として町で、白倉にいろいろなものを造っ

てもらい、死んだような村が生き返ったような気がし

ます。スキー場が出来てからは、たくさんの方が白倉

を訪れるようになり、区民も就労の場ができて、たい

へん喜んでいきます。

ロッジにも調理をする人

などが何人か従事し、もち

やそば、カレーライス、山

菜など、いろいろな調理の

勉強にも行き、訪れる人た

ちのためにと、張り切って

いるようです。

私はロッジの下にある第二ボニールフトの所で働い

ています。毎日若い人たち



とあいさつを交わしたりして顔なじみになります。

「明日も来てけるな」

「うん明日も来る」

などと返事が返ってくる。何かほのぼのとしたものを感じるときがあります。

これからは、ロッジを中心にして、恵まれた自然を生かした夏場の観光を掘り

起こし、年間を通して人が訪れる村にしたい。若者は

ここで働き、嫁さんも喜んで来る……こんな活気のある白倉にするのが私の夢

です。



町民の皆さん明けましておめでとうございます。

昭和五十八年は今までになく容易でない年であらうと思います。鈴木内閣から中曽根内閣に代わり、ソビエトではアンド

ロポフ政権に代わるなど落着かない昨年でありました。

国内経済は、米国はもちろんE・C諸国との貿易不

均衡は正の難問、農産

物自由化の

問題など、

これらの解

決のためには必死の努力がいるときでしょう。

一方、水稲は三年続きの不作に見舞われました。

行政改革による給与、年

新しい年を迎えて

朝日町議会議長 松田 庄治

とは避けられない現状だと思えます。

きびしいこれらの事情を

ふまえ現状の認識の中で、いっそう協力し合いこの時

勢を乗り越える覚悟が必要だと思えます。きびしい財政事情の中で、本年度事業の送橋小が完成し、一方勤

労者のための公営住宅

も完成間近

となつており、町発展

の基礎づくりは休むことなく進められています。元旦

を迎える心境は静かで清らかです。明るくすがすがしいこの心を忘れずに何事に

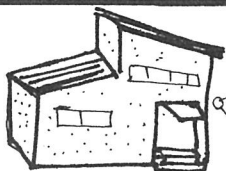
も立ち向かっていきたい。私たち議員一同心新たにして最大の努力をして参ります。



町民の皆さんの御健康と御多幸を御祈りして年頭のごあいさついたします。

はつゆめ

高橋久子



大沼湖畔の家



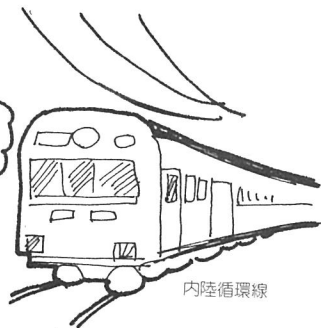
名勝「大沼浮島」

秋葉山スポーツ公園

浮島キャンプ場

観光クリ園

斑坂温泉

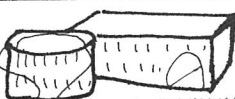


内陸循環線



葉太団地コ

サイクリングロード



郷土資料館



ワイン工場

ワイン貯蔵庫



大谷住宅団地

観光りんご園



ぶどう団地



民俗資料館

双葉住宅団地

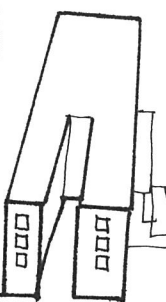
主要地方道 長井～大江線

最上川

新五百川橋

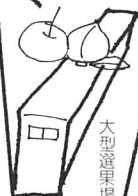


公営住宅



農協会館

八天橋



大型産果場

明鏡橋

果実加工場

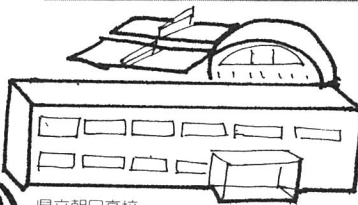


無袋ふじりんご団地

アップルライン



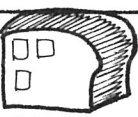
ター



県立朝日高校



下水道



給食センター



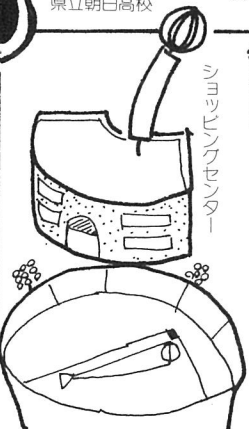
町民プール



マツタケ園



三ツツノ川



ミシロノ川

緑が丘球場



送橋小学校完成

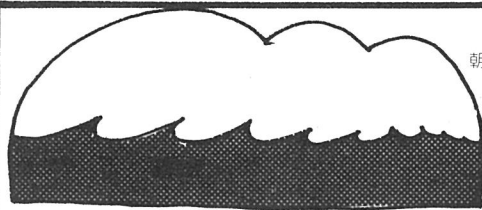
鳥屋ヶ森展望台

沢内ハイウェイ
山形市へ20分



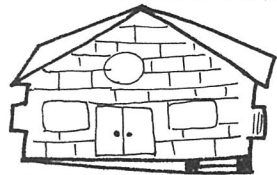
1983年

*イラスト

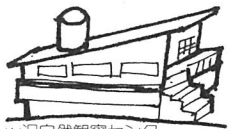


朝日岳

白倉林道



ナチュラリストの家

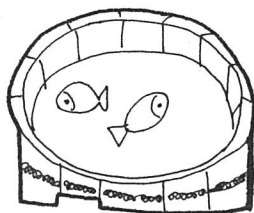


一ツ沢自然観察センター



大規模林道

きのこ園



ヤマメ養魚場



朝日川

イナナつり堀

ロジックのついでに完成



立木河川公園



高師者生産活動センター



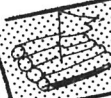
町民保養センター

五百川温泉郷

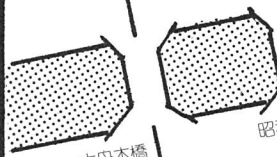


上郷ダム

最上川いかだ下り

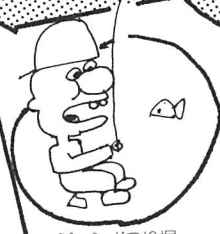


上郷ダム公園



昭和橋

大用木橋

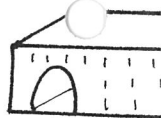


ジャンボつり堀



町立図書館

朝日町立病院



保健センター

国道287号



杉川温泉



ふたばの川



堆肥センター



農機具センター



児童図書館



宮宿地区公共



畜産団地

稲作団地





健康と生きがいを求めて

高齢化社会をどう生きる



ゲートボールで健康増進を（第1回町内交流大会）

日本人の平均寿命が伸び、高齢化社会が問題となつていきます。特にわが町は過疎化に伴つて高齢化が進み、総人口に占める高齢者の割合が一七％で、県下第一位になりました。

高齢化の中で、「町づくり」をどう進めたらよいかは大きな課題です。

町民みんなで高齢化社会を生き抜くために、真剣に考えてみたいと思います。

必ず来る

高齢化社会

長寿の国ニッポン、世界の中でも豊かで平和な国、なんとすばらしい夢の国のようなお話。海外旅行者の中でも、特に東南アジア方面に行かれたかたがたは、必ずといってよいほど、日本ほどよい国はほかにないと言われます。

最近はいろいろな事情で

海外旅行者も少なくなつたせい、あまり耳にしなくなりましたが、自国のよさを否定する声も聞きます。自分の住んでいる町や家は、いちばん幸福なところとどなたも思っているのでしょうか。

ところが、最近ではテレビや新聞などで、連日のように高齢化社会のことを取り上げています。昭和七五年

代には超高齢化し、おばあちゃんだけが多い町や村が出来てくるなどのことを聞きますと、思わずわが町のことを考えさせられます。

現在、朝日町長寿クラブの会員数は一、七四五名。内男性が七五〇名で女性は九九五名、女性が三三％ほど多くなっています。七五年代にはその差が四〇％ぐらいになると思われます。

高齢化を全国的に見ますと山形県は第十三位、朝日町が県下第一位、六五歳以上が総人口の一七％を占めています。

美しい自然に恵まれ、日本一のりんごの産地としての朝日町に加えてお年寄りの多い町。私たちはみんな、高齢化にどう対処すべきかを真剣に考えるべき時でしょう。

社会に恩を返す

ことを目指す

急激な過疎化によりこのように高齢化が進みましたが、行政側も企業側も一体となって、真剣に若者の定住を考え、過疎の進行を食い止める努力をしてきました。今後さらに町民一体となってこの課題に取り組む必要があります。老人もこのような環境の中で果たすべき役割を考えたいものです。

人間国宝という言葉があります。わが朝日町にも人間国宝的な人がたくさんいます。町の歴史解明に取り組んでおられるかた、園芸や芸芸に優れた能力を持ち、後輩の指導に励んでおられるかた等々、一芸に秀でた貴重なかたが多いです。

このような才能を、同輩や後輩の人々に伝えることは町づくりに役立ち、また自分の生きがいにもなります。また、老人のだれしもが成就したい目標を掲げて

努力を続けることは、すばらしい生き方であり、社会への貢献にもつながるものだと思います。

それがたとえ小さな事でも、社会に恩を返そうとする心掛けは忘れてならないもので、老人だけの課題で

健康管理とゲートボールで

ボケを防ごう

「おまえ百まで、わしや九十九まで」のことばのように、五十七年の夏ごろ、日本人の平均寿命が男七三歳、女七八・八歳と発表されました。

まさしく長寿の国といえますが、山形大学医学部の宮沢光瑞先生は「平均寿命の高さを裏から見ると、健康で長生きというよりも、病気で長生きしているが治療で長生きしている。また、長生きするためには医療費がかさむという実態がある。こういうことでは望ましい姿とはいえません」と述べています。

お互い「健康で長生き」を目指したいものです。健康管理は若いうちから心掛

はありません。

若者もやがては老年期を迎え、避けて通れないことです。福祉社会の町づくりに向けて、まず老人が先頭に立ち、若者をも巻き込み一体となって取り組む態勢を作り上げたいものです。

けなければなりません。老人になった今でも遅いということはありません。今がたいせつな時期、適当な運動に加えて知能低下を防ぐ努力が必要です。

近年になって全国的にゲートボールが盛んになってきました。朝日町長寿クラブ連合会も、健康増進対策としてゲートボールの普及を重点事業に取り上げました。町教委の後援で大会を開催したり技術指導を受けています。町福祉協議会でも一部助成を出して奨励しています。また、町ロータリークラブでもゲートボールコート造成費の一部として三〇万円を福祉協

議会に寄附、これを基にして太郎にある高齢者生産活動センターに専用コートを設置しました。

町福祉協議会では、これを一般に開放する計画ですので、大いに利用していただき、健康増進と知的機能の低下を防ぐために、長寿の町づくりに努力していただきたいと思います。

生きがいを

求めて

最近、高齢者とか老人とかの呼び方を改めて「熟



趣味を生きがいに (大谷2 白田義一さん)

年」という言葉で老境を表し、その生き方を説いているかたが多くなってきました。

草木が色とりどりの花を咲かせ、実らせるのと同じように、人もそれぞれ異なった個性を持っており、それぞれの生き方があると思います。生きがいの、人それぞれ求め方がありますが、その根底には「学ぶ」ということがあるようです。

「少年にして学べば壮年にして事を成し、壮年にして学べば老いて衰えず、老いて学べば死して朽ちず」とは中国のことわざです。生きがいは、なんでもよい学ぶことから始まります。新聞を読みテレビを見、家族と談笑する。長寿クラブの友と語り、いっしょに運動をやり講話を聞く。そして趣味を生かしながら、それから学ぶことによって、個性豊かな生き方をする。これは、生きがいを生み出すことにつながります。

△編集／教育広報委員会 V

郷土史を発刊

太郎連合区

このほど太郎連合区(相座孝太会長)で、太郎の歴史をまとめた「郷土のあしあと」(A五版百六ページ)を発刊しました。これは、公民館建設の記念事業として五十一年から進められていたもので、地区内の祠堂、仏閣、石碑などによる記録、生活を通じて得た記録、伝承している事などがびっしり収録されています。



町民のひろば

●意見・話題
をお寄せ下さい。 — 広報係 —

12月18日

白倉スキー場開く

*ロッジ「しらくら」もオープン



ロッジも完成し受入れ態勢はじゅうぶん

去る十二月十八日、町民白倉スキー場開きとともにロッジ「しらくら」(緑地等管理中央センター)の開所式が行われました。前日まで雪のなかったスキー場も、この日のためとばかりに朝から降り続いた雪は二十数センチ。待ちかねていたスキークラブのメンバーは初滑りを楽しみました。オープン以来五年目を迎えた白倉スキー場は、五十

六年に八百ポンドを設置、さらに今回はロッジを建設するなど年々充実してきています。また、スキー場行きのバスを運行することによって、一般のかたも気軽に行けるようになりました。ロッジはスキー場管理組合に運営を委託。カレーライス、そば、もちなどのメニューを用意し、受入れ体制はじゅうぶんとのことです。

☆訂正について

広報先月号の三ページの記事で、「老人保健法が改正され…」のところを「…法が制定され」に訂正します。

東京連絡事務所だより No.12

いのししのよう

朝日町の皆様、明けましておめでとうございます。連絡事務所も二度目の春を迎え、今年の干支の猪突猛進型でがんばります。どうぞ温かい皆様のタズナで、御指導を心からお待ち申し上げます。

意見、御希望がございましたら、ぜひ御一報いただければ幸いに存じます。まずは年頭にあたり、皆様のこの一年が最良の年になりますようお祈り致します。

■朝日町東京連絡事務所

世の中すべて冷え冷えとしております。その中で、せめて「ホット」な何かをお伝えできますように、事務所一同張り切っております。

▽住所 東京都中央区日本橋蛸殻町一―二六―四
今井ビル・俣友井商事内
▽電話 03―666―7002
(お気軽にご利用下さい)

●五十八年度行事計画(案)

- ①めぐり逢いの会の勉強会(東京にて二回)
- ②八月十四日花火大会のひとつとき、大会広場にて民謡ショー(入場無料)

矢下勇蔵・田中瑞穂他
③白倉スキー場・ワイン宣伝会(東京にて二回)
そのほか、町の皆様の御





「一生懸命バカになって打ち込むことが若者らしさだと思うなあ」と言う彼は

はばたけ 若人

私たちは亥年生まれ

「人間味あふれ、ほのぼのとした町だと思います。やっぱり自分の生まれ育っ



た町がいいですね」と、三年前Uターンしてきた彼女は話す。現在宮宿の丸美服装に勤めている。

趣味は、洋裁、アマチュア無線、社交ダンスと幅が広い。ダンスは始めて一年。「壁の花でいたのが、踊れるようになり、とっても楽しいです。ほかにいろいろなしてみたいと思っています

事が、思い切って飛び込んだダンスのおかげでできるようになりました」

「冬場は、交通の便も悪くなるし、無線に力を入れたい。無線の魅力は、知らない人と簡単に話せること。話し方の勉強にもなりますね」と、目を輝かせて語る彼女がとても印象的。(両親、兄弟と五人家族)

知らない人と話せる無線の魅力

赤釜 長岡 智代さん

感動の多い青春に

送橋 渡辺 良さん

(高橋久子広報委員)

昨年、話題を呼んだ町内クリン大作戦の実行委員長を務めたり、県青年大会の意見発表の部で最優秀賞、全国大会では優秀賞を受賞するなど大活躍。

「多くの人と会うことができたし、やっぱり『感動は人生を大きくします』の一言だね」と、昨년을振り返って満足そうに語る。

剣道歴十四年という彼は、四段の腕前で、送橋スポーツ少年団の指導もしている。「小学校の部でアベック優勝が目標ですね」

「考えたり、勉強したりする、時間的余裕がほしいと思います」。

(果食肉公社に勤務。今年二月で二十四歳。七人家族)

大谷小

雪国の味生かし入賞

☆年賀状版画コンクール東北予選

このほど、郵政省が主催する全日本年賀状版画コンクールの東北予選で、大谷小児童の作品が数々の賞に輝きました。

大谷小では、五十三年から毎年このコンクールに出品していますが、趣向を凝らしたカラフルな作品が認められ、五年連続して入賞しています。なかでも

雪国の特徴を出した素朴な作品が目を引きま

す。これらのすばらしい作品を一般のかたにもぜひ見てもらおうと、応募作品の中から五、六年生の作品全部を、一月十日まで大谷郵便局の窓口ルームに展示しています。

なお入賞した作品は全国コンクールへ出品されます。入賞者は次のとおりです。



年賀状版画展は1月10日まで大谷郵便局で

▽山形県教育長賞／白田博(六年) △山形放送賞／遠藤久美子(六年) △山形テレビ放送賞／大谷直美(六年) △山形新聞社賞／志藤彰彦(三年) △山形放送賞(一般の部)／沖津嘉重(大谷小教諭) そのほか十八人が佳作に入っています。



歳末たすけあいに 温かい善意

みんなそろって明るいお正月をと、ことしも歳末たすけあい運動が行われ、町内全戸の方々からたくさん善意が寄せられました。募金は、このほど開かれた配分委員会で検討した結果、つぎのように恵まれない方々へ贈られました。施設に入所している方へは、三役と民生委員代表が三班に分かれて県内二十五の施設を訪問。一人一人に慰問金を贈り励ました。

また町からは、長期療養者二十七名に対し慰問金が贈られました。

●募金の内訳

- 。中部 三五一、六〇〇円
- 。西部 二二八、〇〇〇円
- 。北部 一七二、八〇〇円
- 。篤志寄付金

二五二、一〇〇円

計一、〇〇四、五〇〇円

●配分内訳

- 。中部 三四八、五〇〇円
- 。西部 二七六、〇〇〇円
- 。北部 一五五、〇〇〇円
- 。施設入所者(七五名)

二二五、〇〇〇円

計一、〇〇四、五〇〇円
延人数で二二九名の方へ贈られました。

■また次の方々から恵まれない方へと善意が寄せられました。

▽大暮山 渋谷妙子、郁子ちゃん姉妹がお小遣いをためていたものをと、
二〇、八七一円

▽水本小学校児童二四名から、五、〇二〇円

▽連合婦人会から一万円

*編集室から

新年を迎え、皆さん心を新たにしておられることと思います。

今年も、町政と町民のバ イブ役としての広報の役割を肝に銘じてがんばります。日ごろ感じていることや身近な話題など、どしどしお寄せください。



瑞雲悠々天に舞う大天山の朝ぼらけ、初日は光る雪光る元朝の空青くすみ大天宮の初もうで。登るきざはし天をつき神鈴ひびく宮の杜産土の神大天宮、神鎮まりて九百年松にかかれ新雪清し。

県道山形―朝日線沿い

の一集落古墳は戸数三十一戸の農業集落である。りんご作りに精魂こめて三十五年、今年年産三万箱の生産を誇る活気あふれる村である。流れも清き送橋川を渡り村の北東、九十八段のきざしを登れば大天宮の社殿に達する。

ご神体は全長二九繚一木造りの木像である。大天宮の歴史は古く九百年、祭神は天照大神である。

清野安一家の古文書は語る。「当社八人王七十代後

瑞雲悠々天に舞う大天山の朝ぼらけ、初日は光る雪光る元朝の空青くすみ大天宮の初もうで。登るきざはし天をつき神鈴ひびく宮の杜産土の神大天宮、神鎮まりて九百年松にかかれ新雪清し。

冷泉天皇ノ御宇、永承年中奥州衣川ノ館ニ籠リシ安倍頼時、公企ニ逆イ奥羽ヲ騷シ勅宣ニ依リ、鎮守府將軍源頼義朝臣嫡子八幡太郎義家逆徒追伐ノ為ニ奥州ヘ下リ頼時ヲ亡ボシ子息貞任ヲ追イ出シ。」

古墳『大天宮』

幡太郎義家に命じて賊を平げた。これが世にいう前九年の役である。古文書はさうに語る。

「出羽ノ住人清原武則一万人ヲ率イ將軍ヘ加勢ス。

頼義大イニ悦ビ貞任ヲ亡ボシ奥羽ヲ平ゲ都ヘ帰陣ノ時相州鶴岡八幡宮ヲ建立シ、

清原一族清野義房、渡辺春潔当村ヘ落チ付キ大天ト申ス所ニ神明大神宮一字ヲ武神トシテ勧請シ奉リ。」と、

この戦いの時出羽の豪族清原武則が、家来一万の兵

を以て源頼義父子に応援した。このため安倍頼時父子は戦いに敗れ奥羽に再び平和が蘇った。義家は京都へ帰る途中、相州(神奈川県)鎌倉に有名な鶴岡八幡宮を建立し、清原氏の一族清野、渡辺等を連れて古墳にきて神明大神宮の社を建立したというのである。

興味は深々としてつきない。清野義房、渡辺春潔の子孫は今だれの家だろう。村の一画に大天の地名も残っている。現在の社殿は明治八年春の再建である。

祭例は春風かおる四月十六日、高坂五呂氏の揮毫による「奉納大天宮」の大幟(のぼり)は中天高く春風に舞う。

(文/広報委員長岡幸助)

